



地域の気候条件に合わせた 南国果物の生産

果樹経営 城島町 株式会社88ファーム
代表取締役 中村 荘哉さん(37歳)・彩さん(31歳)

南国果物の生産

県内でも珍しい、南国果物であるマンゴーやライチの栽培を行っている城島町の株式会社88ファーム。

代表を務める中村荘哉さんは、祖父の代まで行っていた農業に以前から関心がありました。妻の彩さんが、前職で南国果物等の生産に携わっていたことから、その経験を活かした農業を始めたいと考えるようになり、家族労働力を主体とした法人経営による就農を決意しました。

育成管理の難しさ

生産に関する情報は、産地である九州南部の生産農家と交流を重ねることで収集しています。加えて、独自に栽培についての研究や試行を繰り返すことで、地域の気象条件等に合わせた生産を行っています。

マンゴーはポット(鉢)での栽培を行っており、土耕栽培に比べて、繊維質が少なく、口当たりの良い果実ができます。一方で育成管理が難しく、水の与え方ひとつで糖度が大きく変わってしまうため、水分調整に最も神経を使います。また、外来品種であるため、思いがけない病気が発生することもあり、その対応にも苦労しています。

荘哉さんは、「難しい作物であるからこそ、良いものが収穫できたときの喜びは大きい。」とやりがいを感じています。

更なる挑戦

現在、マンゴーを使ったジャムなどの商品開発にも取り組んでいます。

将来、直売所や軽食ブースを作ることで、生産者と消費者、さらには、地域住民と来訪者の交流の場を作りたい。」と今後の展望について、夫婦そろって笑顔で話してくれました。

